

ほほえみ 第129号



なにかと議論の多かった東京オリンピックも、開催自体には大きな問題なく終了しました。無観客ではありましたが、日本人選手の活躍もあり、久しぶりの非日常の一時であったと思います。オリンピックが終了してから、盛岡の猛暑もやわらいだようで、夜もゆっくりお休みになれるようになったのではないのでしょうか。

白と黒の大食(タージ)

遣唐使は歴史上、西暦630年から西暦894年まで断続的に行われるのですが、804年には、最澄、空海、橘逸勢という日本史上でも有名な人物達が派遣されています。陳舜臣の小説に、『曼荼羅の人』という空海を主人公としたものがありますが、その記述の中に国際都市・長安には多数の外国人が住んでおり、イスラム系の人たちを大食(タージ)と呼んでいました。大食と書きますが、大食漢であったということではなく、発音を当てた言葉のようです。唐の人たちは、大食には二つの系統があり、白の大食と黒の大食に分けて捉えていたようです。

この白、黒の大食の違いは、着ているものに依るようです。イスラムの方の着ている服を見ると、真白であるか真っ黒なのですね。世界史的には、ウマイヤ朝の人たちが白い服を着ており、それに対抗して勃興したアッバース朝では黒い服を着ていたとなっています。政治的な対立を見ると、イギリスの薔薇戦争は赤薔薇、白薔薇で、日本では平家が白旗、源氏が赤旗でしたが、中世のイタリアでは、ギベリン党(皇帝党)とゲルフ党(法王党)に分かれ、さらにゲルフ党が、白党(ビアンキ)と黒党(ネリ)に分かれていました。二大勢力の場合、紅白や白黒のパターンが多いようです。唐の人たちは、服の色という、わかりやすい違いをもって呼びならわしていたのでしょう。現代では、インターネットで見る限り、サウジアラビアでは男性は白、女性は黒の服ですが、イランは、イスラム圏としては服装が比較的色彩フルですね。

ムハンマドは、アラビア半島のメッカで生まれ、イスラム教はアラビア半島から、西アジア、アフリカにかけて広まりました。その中でも、イラン(ペルシア)には元々、ゾロアスター教(拝火教)があり、後にイスラム教に変わった地域です。イスラム教にはスンナ派とシーア派という二大宗派があり、シーア派が多数を占めるイランは独特の国だと言えるでしょう。昨今では、イラク、シリア、イラン、アフガニスタンと順々に国際問題化しており、世界の紛争地帯の一つとなっています。

イランとアフガニスタンという、二つの宗教国家が隣接していますので、ただでさえ不安定な中東情勢を、さらに緊張させる経過となりそうです。特にアフガニスタンの状況は予断を許しません。

アフガニスタンに関しては、ソ連、米国の大国が侵攻や、介入をしても政治的に安定しないところを見ると、軍事力ではなくて、『六韜』で言う、戦略、駆け引きを重視しなければならないでしょうし、長い宗教的な歴史に対する考察も必要な気がします。



ホメイニ氏の服装と、サウジアラビアの男性の服装



そうめんといえば

夏の暑い日に食べたくなるものといえば、そうめんではないでしょうか。そうめんと一口にいても、地方によってさまざまな食べ方があるかと思います。私の郷里では、白エビが有名なこともあり、そうめんの出汁を白エビでとるということが一般的でした。むしろ、白エビといえばそうめんの出汁のイメージです。流通の問題もあると思いますが、白エビは身を食べるのは、大変なものなので、出汁を取るのに使われていたのかもしれませんが。

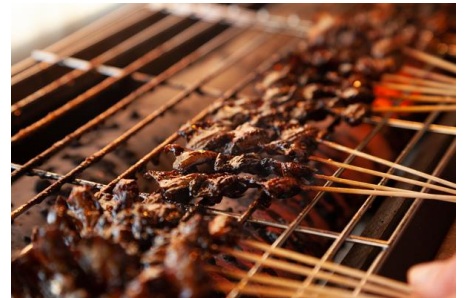


麺の方も、大門素麺というものがあって、糸玉のようになった長いそうめんです。非常に長いので、折ってゆでることが多いかと思います。大門素麺はお取り寄せすれば手に入るかと思いますが、白エビで出汁をとるのは、盛岡では難しそうですね。



夏の風物詩 part2

そうめんの話題を書いている、夏の食べ物といえばドジョウの蒲焼というものがあつたなあと思い、食べられないかと思って調べたのですが、金沢ー富山の一部でしか食べられていないようです。作り方は知らなかったのですが、2ー3日きれいな水で臭みをとったドジョウを一尾ずつ蒲焼にしたものです。これは、家庭で作るものではなく、基本的にドジョウの蒲焼を専門とするお店で買うものです。小学生のころ、商店街のドジョウの蒲焼屋さんにお使いに出された記憶があります。



MEMO

8月のがん化学療法科の予定

8月3日	診療応援(佐々木先生)
8月5日	診療応援(平出先生)
8月10日	診療応援(工藤先生)
8月12日	診療応援(平出先生)
8月16日	休診
8月17日	診療応援(佐々木先生)
8月19日	診療応援(平出先生)
8月20日	休診
8月24日	診療応援(工藤先生)
8月26日	診療応援(平出先生)
8月31日	診療応援(佐々木先生)

